

「宍粟の鉱山」

奈良時代の初めに成立した『播磨国風土記』には、宍禾（宍粟）郡の柏野里敷草村（現在の千種町）と、御方里金内川（現在の一宮町三方地区）で「鉄を出す」という記事が見られます。このことから、少なくとも奈良時代の初めには宍粟郡で鉄の生産が行われていたことが知られます。その後、中世から江戸時代、さらには明治時代前期まで宍粟の北部一帯でたたら製鉄が盛んに行われていたことは広く知られているところですが（「広報しそ」平成二十八年二月号参照）。



大身谷鉱山
（『一宮町史』より）

一方、宍粟郡では、金・銀・銅などの非鉄金属を産出する鉱山があった

たことも知られています。但馬との国境に近い一宮町繁盛地区倉床には赤金鉱山、大立鉱山、大身谷鉱山などがあり、金・銀・銅・亜鉛などを産出していました。

大正十二年（一九二二）に発行された『兵庫県宍粟郡誌』によれば、大立鉱山は、明治七、八年（一八七四、一八七五）ごろ、生野の山原某という人が開坑に着手し、間もなく五代友厚の所有となり、明治二十年（一八八七）ころに盛況を迎えましたが、その後衰微し明治四十年（一九〇七）には三菱合資会社に引き継がれたとされています。

五代友厚は天保六年（一八三五）薩摩藩鹿児島城下で生まれ、明治新政府のもとで官僚となりましたが、明治二年（一八六九）に実業家に転身しました。福島県の半田銀山や奈良県の天和銅山など全国の鉱山を経営し、「鉱山王」と呼ばれました。

鉄道や紡績業なども行い、明治十一年（一八七八）には大阪商法会議所（現・大阪商工会議所）を設立して初代会頭となり、近代の大阪経済発展の基礎を築いた人物として連続テレビ小説にも登場しました。

最近、朝来市の郷土史家である故・山内順治氏が残された半世紀前の手記に、五代友厚が「宍粟郡富士野赤銅山経営の途 神子畑に旧坑あるを

探知して部下加藤に命じ探鉱せしもの」という記述があるのが見つかりました（『神戸新聞』平成二十八年一月三十日）。手記の中の「赤銅山」は赤金鉱山を指すとみられますが、赤金鉱山での五代友厚の経営については明らかではありません。なお、明治初期における「播磨の倉床」の金の産額は、全国最多とされています（『明治工業史・鉱業篇』）。

大身谷鉱山は、金・銀・珪酸鉱などを産出し、江戸時代には製錬を行っていたとみられます。明治初年より稼行されていましたが、大正九年（一九二〇）に一旦閉山し、昭和十二年（一九五七）に再び開坑、昭和六十年（一九八五）まで操業されていました。



大身谷鉱山
（『追憶ふるさと宍粟写真集』より）

【参考資料】

『兵庫県宍粟郡誌』一九二三年、『明治工業史・鉱業篇』一九三〇年、『一宮町史』一九八五年、『追憶ふるさと写真集』二〇〇八年ほか。

社会教育文化財課

編集後記

1月中旬の大寒波の影響で市内全域に大雪が降り、地域によっては1メートル近い積雪を記録しました。日頃の運動不足がたたったのか、家の周りを少し雪かきただけで全身筋肉痛になってしまった小です…。こうした雪かきや凍った道での車の運転など、雪のせいでなにかと大変なことが多い季節でしたが、ウィンタースポーツを楽しめる機会が増えたシーズンでもありました。昨年は暖冬により諦めた市内のスキー場へも行くことができ、真っ白なゲレンデの上で冬のレジャーを楽しめたことは大満足です。さあ節分も終わり、春の気配がだんだんと近づいてきています。

小

広報しそ 2月号

発行／宍粟市 編集／企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県宍粟市山崎町中広瀬 133-6

平成29年2月15日発行(143号)

☎0790-63-3000(代) FAX 0790-63-3061(代) info@city.shiso.lg.jp http://www.city.shiso.lg.jp



この広報紙は環境保護のため、植物油インキと古紙再生紙を使用しています。